

1-1

Illustratorの基礎知識

Illustratorは、商業印刷をはじめ、Web制作や映像制作などクリエイティブな現場でプロが使うデザインツールとして必須のソフトウェアとなっています。はじめに、Illustratorがどんなソフトなのか、概要をつかんでおきましょう。

Illustratorとは

Illustratorは、アドビシステムズ社が販売しているグラフィックソフトウェアで、出版や広告などの印刷物の作成から、Web用のパーツなどの作成まで、幅広い用途で利用されています。

アドビシステムズ社には、写真の補正・加工で有名なPhotoshopをはじめ、InDesign、Dreamweaverなどの、グラフィックやデザイン関連のソフトウェアがたくさん用意されていますが、Illustratorはもっとも歴史の長いソフト

で、1987年にバージョン1がリリースされました。以降、機能追加や細かなアップデートが繰り返されており、2020年1月現在の最新バージョンは、「Illustrator 2020」(Ver.24)で、トータルのバージョン数でいうと「24」になります。なお、バージョンによってはIllustrator CSやIllustrator CCと呼ばれることもあります。

Illustratorは、多くのユーザーに愛用され、プロのデザイナーやイラストレーターの定番ソフトとなっています。

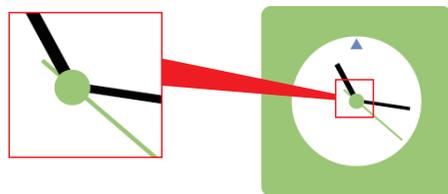
ベクトルとラスターとの違い

グラフィックソフトは、「ベクトル系(ドロー系)」と「ラスター系(ペイント系)」に大別されます。

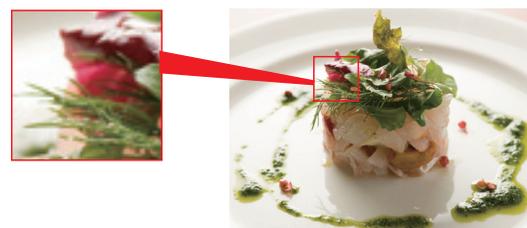
Illustratorはベクトル系ソフトです。ベクトル系ソフトでは、円や長方形などの図形はひとつのかたまり(オブジェクト)として描画されます。オブジェクトは、数式で記憶されているため、拡大したり変形しても劣化しないのが大きな特徴です。また、オブジェクトごとに選択して重ねたり、移動できます。

ラスター系ソフトは、小さな点(ピクセル)で描画するソフトで、アドビシステムズ社の製品ではPhotoshopが代表的です。ラスター系ソフトは、拡大や変形すると画像が粗くなる場合があります。また、ベクトル系と異なり、画像内にある一部の円や長方形だけを移動したり削除することは簡単にはできません。

なお、デジタルカメラで撮影した写真の画像も、ラスター系ソフトで作成した画像と同じようにピクセルが集まってできています。



Illustratorの図形は、拡大してもなめらか

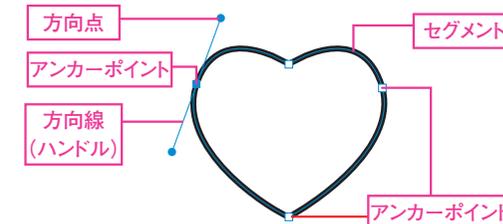


デジタルカメラの画像などは拡大すると画像が粗くなる

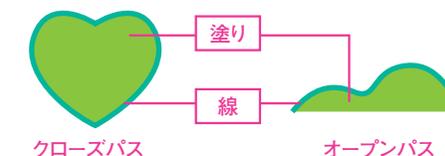
Illustratorのパスの構造

Illustratorで作成する円や長方形などの図形を「パス」といい、パスは「アンカーポイント」と「セグメント」でできています。アンカーポイントとは、図形の形状を決めるための点で、セグメントはアンカーポイント同士を結ぶ線です。曲線部分のアンカーポイントからはセグメントの形状を決める方向線(ハンドル)が出ており、方向線(ハンドル)をコントロールすることで、自由に曲線を作成できます。

オブジェクトの形状は、基本的にはパスの形状となります。オブジェクトの色は、パスの内部([塗り])と、パスそのもの([線])にそれぞれ設定できます。パスが閉じたものは「クローズパス」、開いているものは「オープンパス」といいます。オブジェクトの形状は、アンカーポイントや方向線を調節することで、自由に変形できます。



Illustratorで作成した図形(パス)は、アンカーポイントとセグメントで構成される



線が閉じた図形はクローズパス、開いている図形はオープンパス

画像も配置できる

Illustratorでのアートワークの制作の基本は、図形を作成することですが、文字を入力したり、写真などの画像データを配置することもできます。

配置した画像は、Photoshopのように細かいレタッチはできませんが、拡大・縮小、回転などの基本的な変形は行えます。また、Photoshop用のフィルターを使って、画像に対して特殊効果を加えることもできます。

Illustratorでは、描画した図形、配置した画像、入力したテキストなどをオブジェクトといいます。オブジェクトは互いに独立しているため、後からオブジェクトを個別に選択して移動、変形、削除などが可能です。



画像

図形

La Véronique 文字

Illustratorで作成した図形や、文字、配置した画像などをオブジェクトといい、移動や変形が可能

COLUMN

複数のバージョンがあるIllustrator

Illustratorは、すべてWebサイトからダウンロードして利用します。料金は、毎月の使用権を購入するサブスクリプション形式が採用され、Adobe IDでサインインすれば、どのPC/Macでも利用できます。

名称はIllustratorに統一されていますが、ほぼ1年おきに最新バージョンがリリースされています。2019年11月にリリースされたIllustratorは、通算バージョン番号が「Ver.24」で、「Illustrator 2020」と表示されます。Creative Cloudユーザーは、直近の2バージョンである「Illustrator 2020」(Ver.24)と「Illustrator 2019」(Ver.23)をダウンロードできます(2020年1月現在)。すでにダウンロードしたものは、アンインストールしなければ利用できます。また、AdobeのWebサイトからは、「Illustrator CC」(2017)と「Illustrator CC」(2015.3)をダウンロードできます。

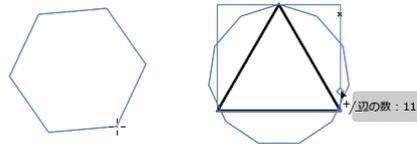
なお、2017年リリースまでは「Illustrator CC」と呼ばれていましたが、2018年リリースからは「Illustrator」となりました。

2-3

多角形を描く

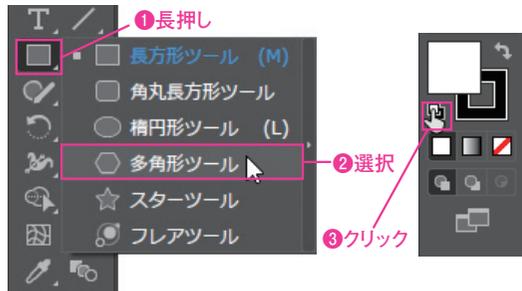
四角形を描く際には長方形ツールを使用するほうが便利ですが、ほかの多角形を描く際には多角形ツールを使用します。多角形ツールは、長方形ツールとは少々使い方が違うので、しっかりと覚えましょう。

STEP 01 ドラッグで多角形を描く

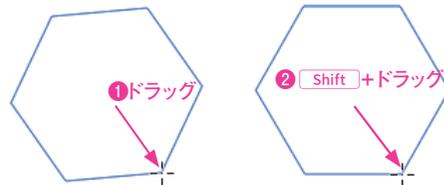


多角形ツールを選択して、マウスをドラッグすることで、多角形を描くことができます。このとき、同時に **Shift** キーを押すことにより、底辺が水平になるよう配置できます。また、描画した後で辺の数を変更することができます。

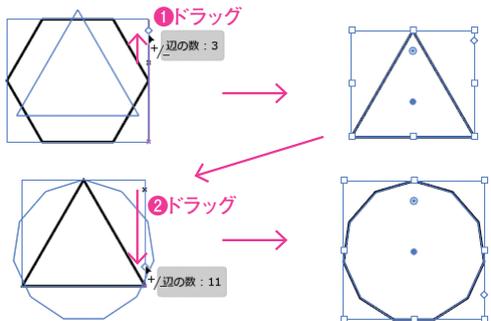
- 1 ツールバーで長方形ツールを長押し①、メニューが表示されたら、多角形ツールをクリックして選択します②。ツールバーの [初期設定の塗りと線] をクリックします③。



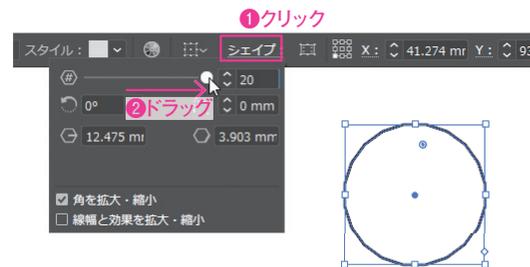
- 2 新規ドキュメントのアートボード上でマウスをドラッグします①。ドラッグの距離に応じた大きさの多角形ができます。初期状態では、六角形が描画されます。多角形ツールは、必ず中心から描かれます。ドラッグする際に **Shift** キーを押すことで、底辺を水平に合わせることができます②。



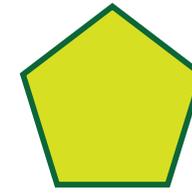
- 3 右側にあるハンドルを上へドラッグして三角形にしてみます①。続けて、下へドラッグして11角形にします②。



- 4 さらにコントロールパネルの [シェイプ] をクリックし①、[多角形の辺の数] スライダーをドラッグして「20」にしてみます②。

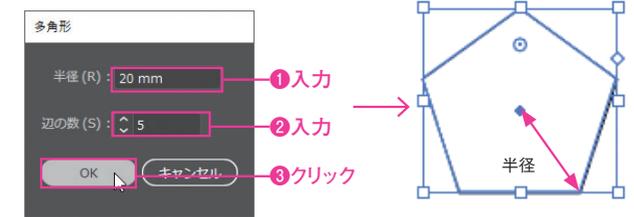


STEP 02 数値指定で多角形を描く

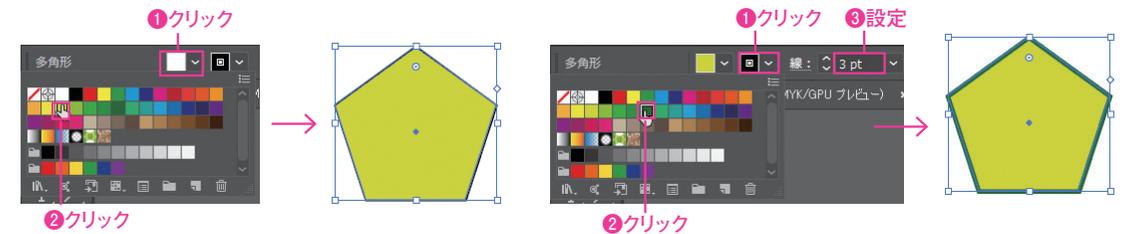


多角形ツールをクリックすると、半径と辺の数を指定するダイアログボックスが表示され、数値を指定して多角形を描画できます。色や線の太さも設定してみましょう。

- 1 アートボード上で、多角形ツールを選択した状態で、マウスをクリックします①。
- 2 [多角形] ダイアログボックスが開くので、[半径] に「20」①、[辺の数] に「5」を入力して②、[OK] をクリックします③。[半径] は、多角形の中心から頂点までの距離です。

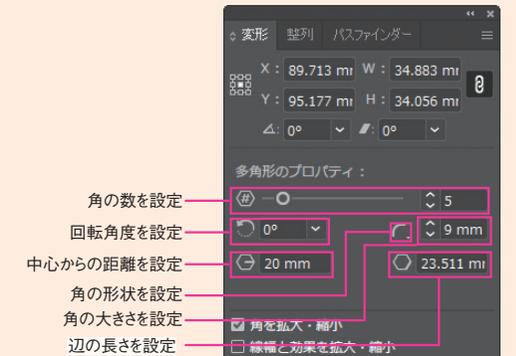
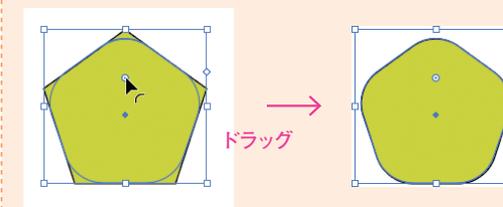


- 3 多角形が選択された状態で、コントロールパネルの左端にある [塗り] のアイコンをクリックし、スウォッチパネルを表示します①。スウォッチパネルから好みの色 (ここでは [C=20 M=0 Y=100 K=0]) を選択してクリックします②。
- 4 続いて、[塗り] のアイコンの右隣にある [線] のアイコンをクリックしてスウォッチパネルを表示します①。スウォッチパネルから好みの色 (ここでは [C=90 M=30 Y=95 K=30]) を選択してクリックします②。続けて、線幅を「3pt」に変更します③。

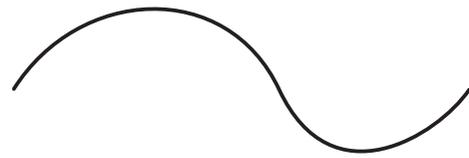


ライブシェイプとしての多角形

多角形のオブジェクトもライブシェイプオブジェクトとなります。長方形と同様に、図形内のウィジェットをドラッグして角の形状を変形できます。また、変形パネルで、角の数、角の形状と大きさ、中心からの距離、辺の長さを設定できます。



STEP 01 ペンツールのドラッグで曲線を描く-1



ペンツールを選択して、マウスをドラッグすることで、曲線を描くことができます。何度か描いて方向線に慣れておきましょう。

Lesson03 ▶ L3-2S01.ai

STEP 02 ペンツールのドラッグで曲線を描く-2



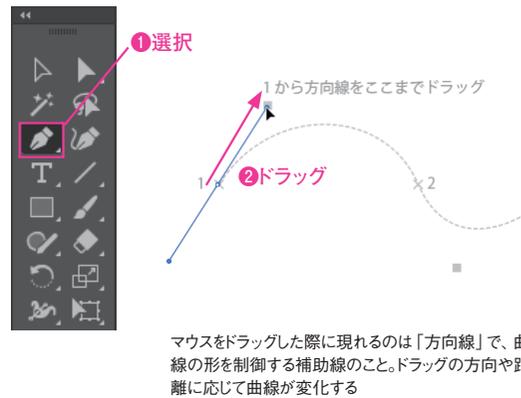
ペンツールで曲線を描いている途中で、直前に作成したポイントをもう1度クリックしてから曲線を描くと、尖った角をつくることができます。

Lesson03 ▶ L3-2S02.ai

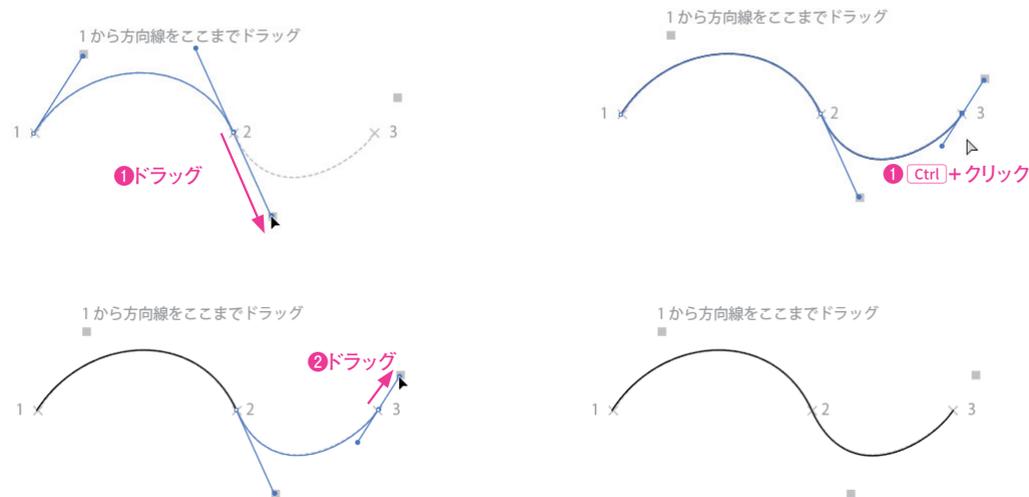
- 1 レッスンファイルを開きます。このファイルには、ペンツールで曲線を描く練習をするための下絵が描かれています。コントロールパネルまたはプロパティパネルの「塗り」をクリックし①、「なし」をクリックして選択します②。



- 2 ツールバーでペンツールをクリックして選択し①、曲線の始点(下絵の「1」)をマウスでドラッグして、青い小さな円を下絵に合わせます②。

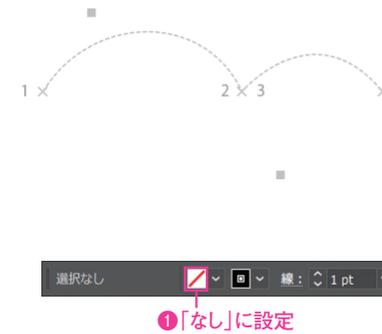


- 3 続いて、下絵の「2」からマウスをドラッグして、同じように下絵に合わせます①。同様にして終点(下絵の「3」)からドラッグします②。これでひとつの曲線ができました。

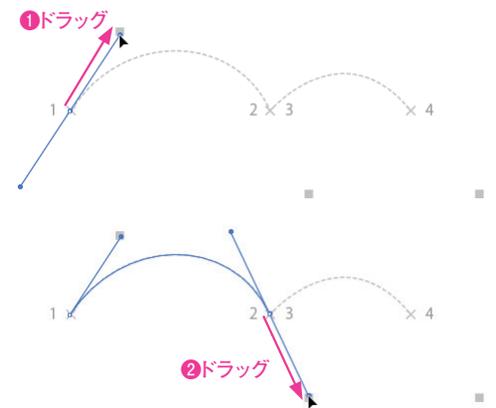


- 4 最後に「Ctrl」キーを押しながら何もない場所をクリックして描画を終了します①。「Enter」キーを押してもかまいません。

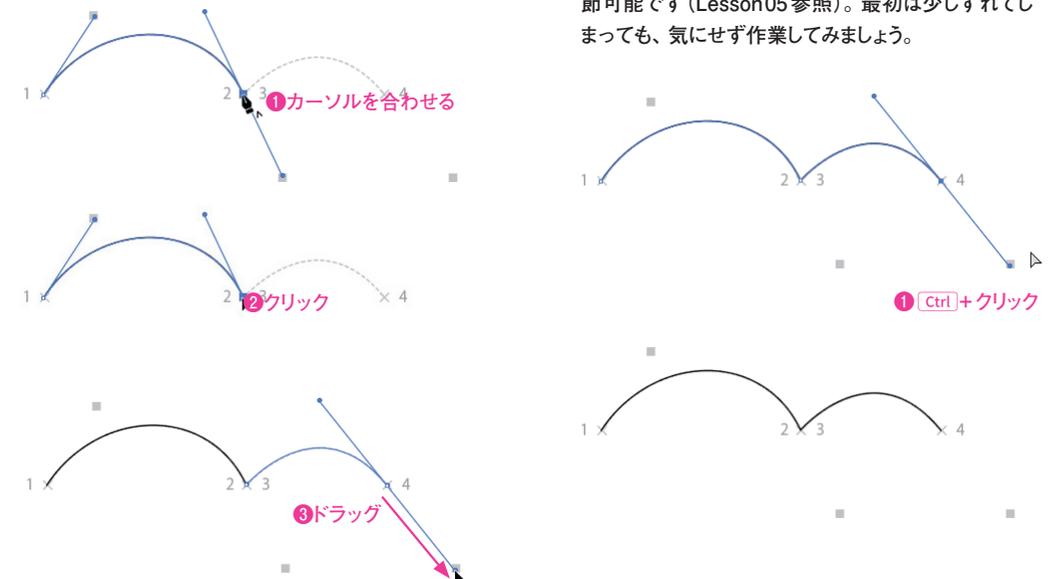
- 1 レッスンファイルの下絵を使います。コントロールパネルまたはプロパティパネルで、「塗り」を「なし」に設定します①。



- 2 ペンツールで、下絵の「1」①と「2」②のアンカーポイントをSTEP01と同じように作成しましょう。



- 3 2番目のアンカーポイントを作成したら、もう一度そのアンカーポイントにカーソルを合わせて①クリックして②、下絵の「4」からドラッグします③。



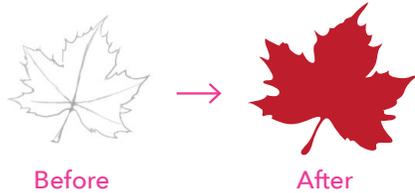
- 4 最後に「Ctrl」キーを押しながら何もない場所をクリックして描画を終了します①。「Enter」キーを押しても終了します。アンカーポイントの位置や方向線は、後から自由に調節可能です(Lesson05参照)。最初は少しずつでも、気にせず作業してみましょう。

4-4

塗りブラシツールと消しゴムツール

塗りブラシツールは、使い方は鉛筆ツールと似ていますが、線をアウトラインで描くツールです。また、消しゴムツールは、Photosopのようなペイントソフトで消しゴムを使用するようにして、オブジェクトの一部または全部を消すことができます。

STEP 01 塗りブラシツールと消しゴムツールで描く



塗りブラシツールと消しゴムツールを使って、下絵を塗っていきましょう。塗りブラシツールは、選択されているオブジェクトと重なる部分はひとつのオブジェクトとなります。

Lesson04 ▶ L4-4S01.ai

1 レッスンファイルを開きます。このファイルには、葉のオブジェクトの下絵が描かれています。

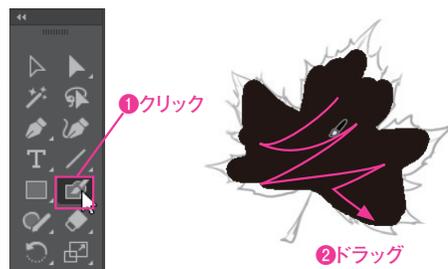


2 ツールバーで塗りブラシツールをダブルクリックします①。[塗りブラシツールオプション] ダイアログボックスが表示されるので、[選択を解除しない]②と[選択範囲のみ結合]③にチェックをつけて、[OK]をクリックします④。



①ダブルクリック

3 塗りブラシツールを選択し①、下絵を塗りつぶすようにドラッグします②。線からはみ出してもかまいません。拡大表示してやりやすい大ききで作業してください。



②ドラッグ

COLUMN

塗りブラシツールによるオブジェクトの融合

オブジェクトが選択された状態で、塗りブラシツールでオブジェクトに重なるようにドラッグすると、重なった部分は融合してひとつのオブジェクトとなります。オブジェクトが選択されていない状態では、重なるようにドラッグしても融合せず、別のオブジェクトとなります。ここでは、[塗りブラシツールオプション] ダイアログボックスの設定により、ドラッグ後のオブジェクトは選択された状態になるので、ひとつのオブジェクトとなります。

4 キーボードの[]キー(小さくなる)と[]キー(大きくなる)を押すと、ブラシのサイズを変えられるので、ブラシを小さくして細部を塗りつぶします①。サイズが変わらない場合は、半角英数字入力モードにしてください。



①細部を塗りつぶす

塗りブラシツールの色

塗りブラシツールで描画したオブジェクトの色は、[線]に設定された色となります。ただし、描画後にオブジェクトを選択すると、描画時の[線]の色は[塗り]の色となり、[線]の色は[なし]となります。

CHECK!

5 塗りつぶしたオブジェクトが選択された状態で、コントロールパネルまたはプロパティパネルの[不透明度]を「30%」に設定し①、下絵が透けて見える状態にします②。

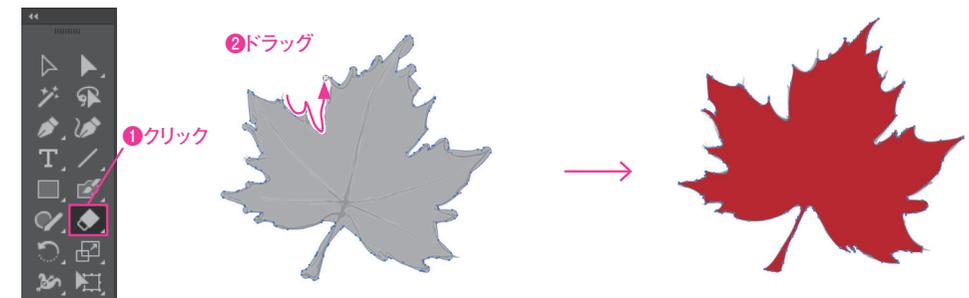


①設定



②下絵が見える状態にする

6 消しゴムツールを選択し①、下絵からはみ出した部分をドラッグして消していきます②。[]キーと[]キーを使ってブラシサイズを変更しながら作業すると消しやすくなります。下絵とまったく同じになる必要はありません。形が満足できる状態になったら、コントロールパネルまたはプロパティパネルで[不透明度]を「100%」に戻し、[塗り]の色を指定します。ここでは、[C=15 M=100 Y=90 K=10]の赤色を選択しています。



下絵からはみ出した部分をドラッグして消していく

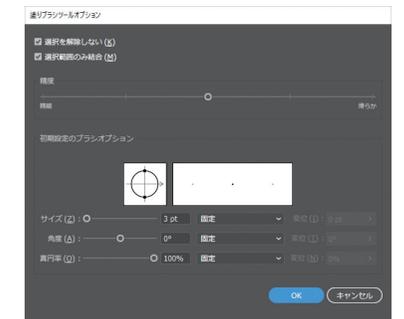
COLUMN

塗りブラシツール/消しゴムツールオプション

ツールバーの塗りブラシツール、消しゴムツールのアイコンをダブルクリックすると、オプションダイアログボックスが表示され、ブラシサイズや形状を調節できます。

- ・サイズ: ブラシのサイズを設定します。
- ・角度: ブラシの角度を設定します。
- ・真円率: ブラシの形状を楕円にする際に設定します。

それぞれの項目で[固定][ランダム]が選択できます。[ランダム]では、[変位]で変動量を設定できます。筆圧感知タブレットを使用している場合、[筆圧][傾き]なども選択できます。そのほかの項目は、P.059の「オプション設定」を参照ください。



STEP 09 パペットワープツールで変形する



パペットワープツールは、オブジェクトの一部を移動・回転させて、スムーズに変形します。元のオブジェクトを違和感なく自然に変形させることができます。

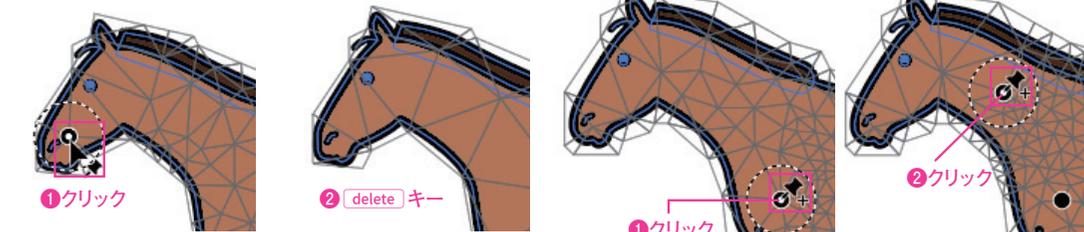
Lesson05 ▶ L5-2S09.ai

単独のオブジェクトを変形する

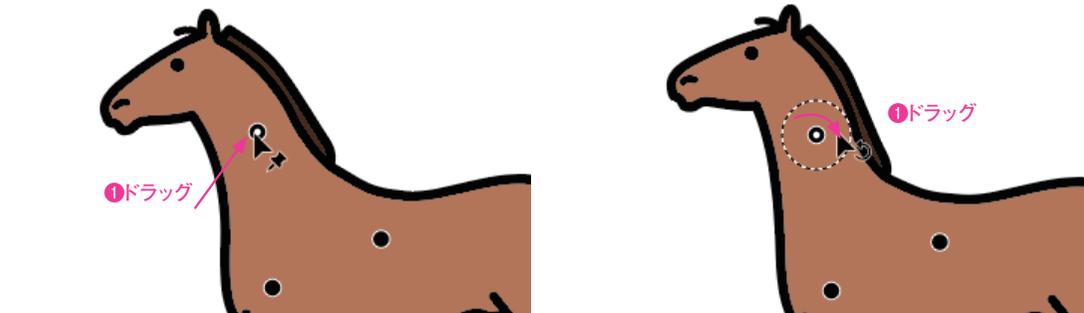
- 1 レッスンファイルを開きます。選択ツールで[A]のオブジェクトを選択し、パペットワープツールを選択します。メッシュが表示され、自動でピンが配置されます。ピンは、変形の際に動かないようするポイントを指定すると同時に、変形のためのハンドルにもなります。ピンは手動で追加・削除することができます。



- 2 馬の頭を前に向けるようにします。このまま首を動かすと顔が伸びてしまうので、鼻にあるピンを削除します。ピンの中心をクリックして選択し、[delete]キーを押します。
- 3 余計な部分が動かないよう、前脚の上あたりをクリックしてピンを追加し、さらに首にもクリックしてピンを追加します。

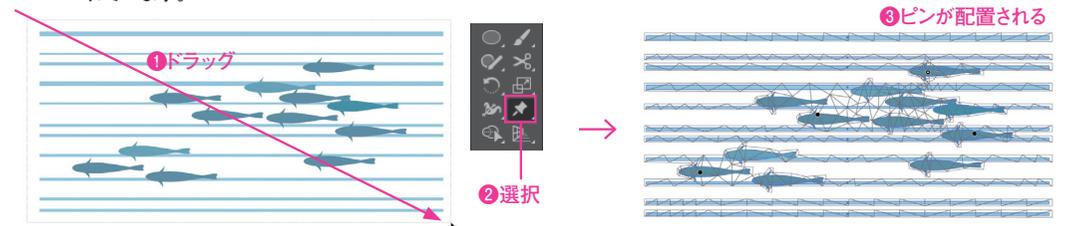


- 4 首に追加したピンをドラッグして首を起こします。ピンの操作中はメッシュが非表示になり、変形の確認が容易になります。
- 5 ピンの中心と周囲の円の間にカーソルを入れ、ドラッグすると回転ができるので、顔が少し上を向くように回転します。

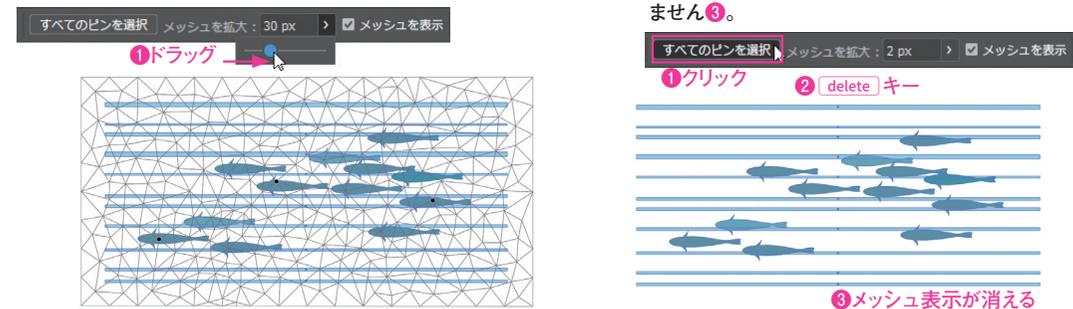


複数のオブジェクトを同時に変形する

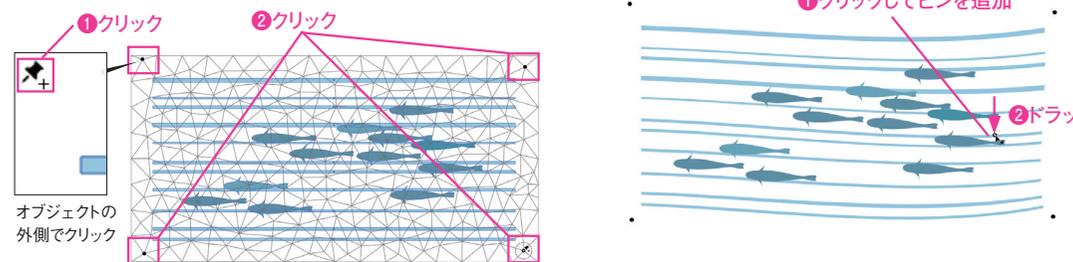
- 1 選択ツールで[B]のオブジェクト全体をドラッグして選択し、パペットワープツールを選択します。選択されたオブジェクトすべてにメッシュが表示され、自動でピンが配置されます。ピンはオブジェクト全体に対して分散して配置されています。



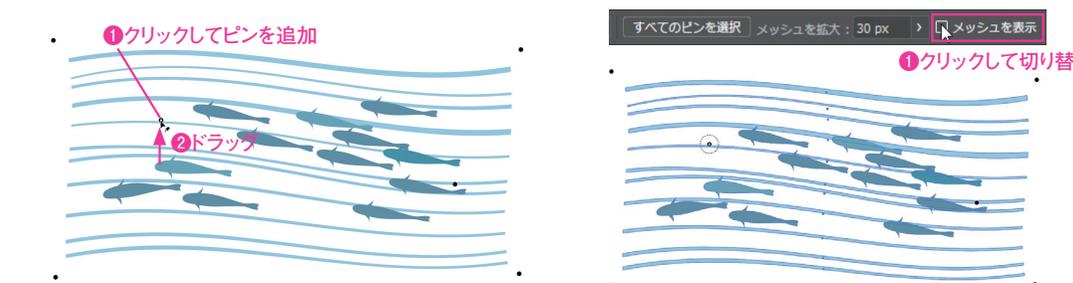
- 2 コントロールパネルまたはプロパティパネルで[メッシュを拡大]のスライダーをドラッグして全体が網羅される大きさにします(ここでは「30px」に設定)。
- 3 コントロールパネルまたはプロパティパネルで[すべてのピンを選択]をクリックします。自動配置されたすべてのピンが選択されるので[delete]キーを押して削除します。ピンが0個になるとメッシュは表示されません。



- 4 ピンを追加できる場所にカーソルが移動するとアイコンが*に変化するので、オブジェクトの外側をクリックしてピンを追加します。ピンが置かれるとメッシュが表示されるので、四隅にピンを配置します。
- 5 上下中央、右端の辺りにピンを追加し、追加したピンを下へドラッグします。オブジェクト全体が変形します。



- 6 次に上下中央、左端から1/4辺りにピンを追加し、追加したピンを上へドラッグします。
- 7 コントロールパネルまたはプロパティパネルの[メッシュを表示]をクリックして切り替えて、変形を調整します。



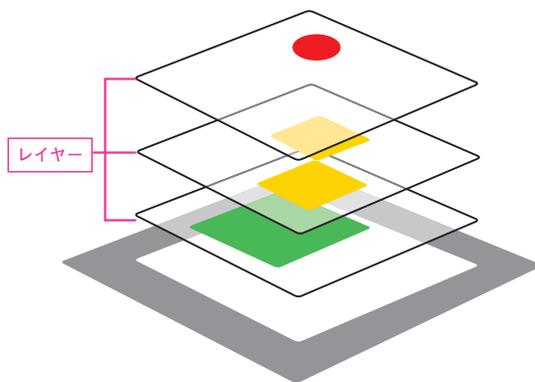
6-1 レイヤーを使う

Illustratorはオブジェクトを組み合わせてアートワークを制作していきます。レイヤーを使うと、たくさんのオブジェクトの管理がしやすくなります。よく使う機能なので、操作方法をしっかり学んでおきましょう。

レイヤーとは

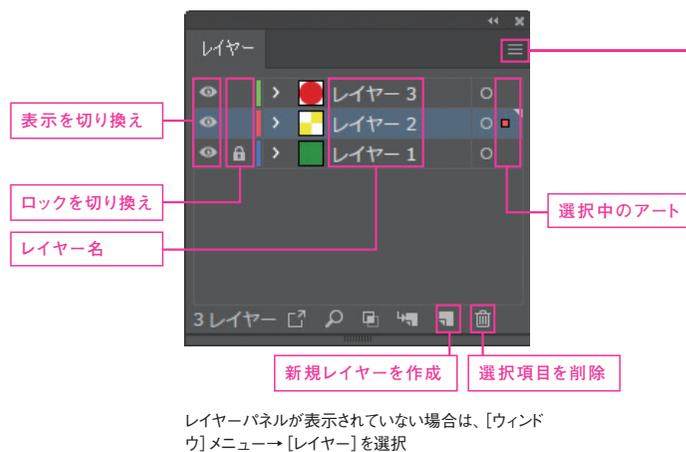
作業台の上に透明なフィルムが数枚乗っていて、それぞれのフィルムの上にオブジェクトが描いてある、とイメージしてみてください。「レイヤー」はそういうイメージで扱えるように作られたインターフェイスです。

レイヤーひとつが透明なフィルム1枚に相当し、重ねる順番を変えたり、編集できないようにロックするなど、さまざまな機能があります。新規ファイルを作成すると、自動的に「レイヤー1」が作成されます。特に意識しなくとも、常にひとつはレイヤーを使っている状態です。



レイヤーパネル

レイヤーの操作はレイヤーパネルで行います。まず、よく使われる部分をざっと確認しておきましょう。下の図は、3つのレイヤーがあり、「レイヤー2」が選択されている状態のもので。



また、パネル右上の☰をクリックすると、パネルメニューが表示されます。パネルメニューにはそれほど多用する機能はありませんが、項目名からわかる機能が多いのでこれもざっと目を通しておきましょう。

パネルメニュー

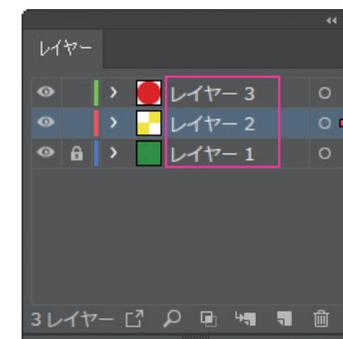
新規レイヤー(N)...
 新規サブレイヤー(B)...
 「レイヤー2」を複製(C)
 「レイヤー2」を削除(D)
 「レイヤー2」のオプション(O)...
 クリップングマスクを作成(S)
 編集モードを開始(I)
 編集モードを終了(X)
 選択したオブジェクトを探す(E)
 選択レイヤーを結合(M)
 すべてのレイヤーを結合(F)
 新規サブレイヤーに集める
 サブレイヤーに分配(シーケンス)(Q)
 サブレイヤーに分配(ビルド)(V)
 順序を反転(V)
 テンプレート(T)
 他を隠す(H)
 その他をアウトライン表示(U)
 すべてのレイヤーをロック解除(U)
 保存したレイヤーをペースト(R)

レイヤーの選択

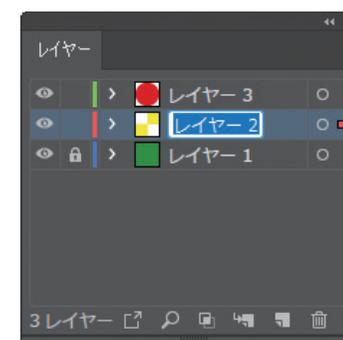
レイヤーを選択するときには、右図の赤線で囲まれた部分(レイヤー名)をクリックします。選択したレイヤーは表示色が変わります。

レイヤーの名称変更とレイヤーオプション

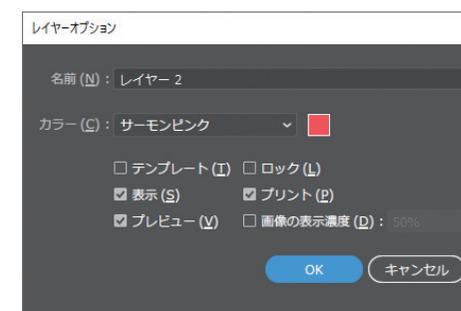
レイヤー名の部分をダブルクリックすると名前を編集できます。名前以外の部分をダブルクリックすると、[レイヤーオプション]ダイアログボックスが表示され、レイヤーの名前やレイヤーカラーを設定できます。



レイヤーは、レイヤー名をクリックして選択する



レイヤー名部分をダブルクリックすると名称を変更できる



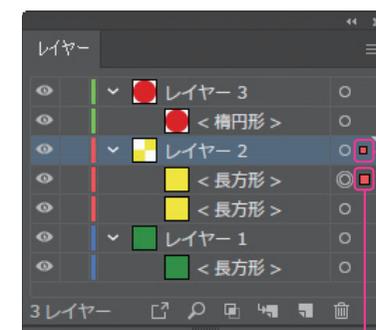
[レイヤーオプション]ダイアログボックスでは、レイヤー名やレイヤーカラーを設定できる

レイヤーの展開とオブジェクトの選択

レイヤー名の左側に表示された[>]をクリックすると[V]となり、レイヤー内に配置されているオブジェクトがすべてリスト表示されます。

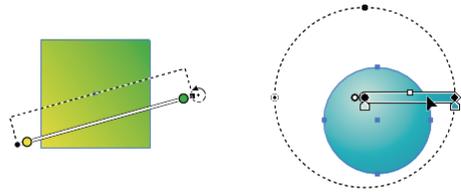
選択ツール▶などでオブジェクトを選択すると、オブジェクトは属しているレイヤーのレイヤーカラーでパスやバウンディングボックスが表示されます。また、レイヤーパネルの右端に小さな■が表示されます。

レイヤーパネルでオブジェクトを選択することもできます。右端の空欄部分(選択したときに■が表示される部分)をクリックすれば、そのオブジェクトを選択できます。この選択方法は、重なり合っているオブジェクトの数が多くて選択ツール▶では選択できないときに便利です。レイヤーと同様に、ドラッグしてレイヤー間を移動したり、前後関係を変更することも可能です。



オブジェクトのあるレイヤーにも■が表示される。レイヤー内のオブジェクトがすべて選択されると、■の表示サイズが大きくなる

STEP 03 グラデーションツールの使い方を覚える

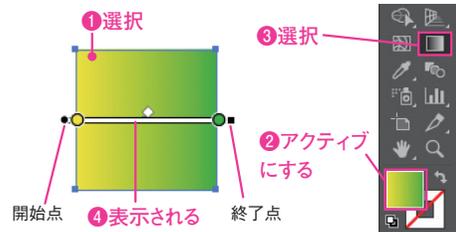


グラデーションツール を使うと、線形または円形グラデーションを、オブジェクト上で設定できます。グラデーションパネルではできない、グラデーションの形状に変更することもできます。

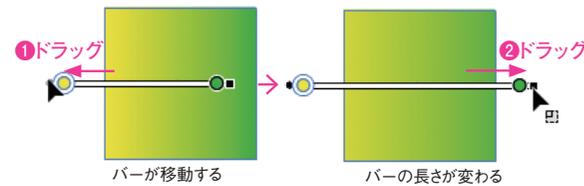
Lesson08 ▶ L8-2S03.ai

ドラッグで開始点と終了点を移動

- レッスンファイルを開きます。選択ツール でオブジェクト を選択し①、ツールバーで [塗り] をアクティブにして②、グラデーションツール を選択します③。選択したオブジェクト上にバーが表示されます④。●が開始点、■が終了点です。

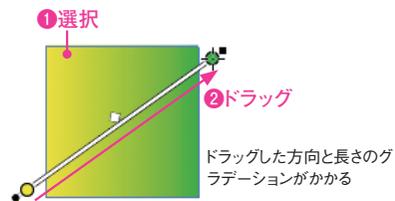


- バーの開始点を左側にドラッグすると①、バーが移動してグラデーションの開始位置がオブジェクトの外側になります。終了点を右側にドラッグすると、バーの長さを変更できます②。このように、グラデーションツール を使うと、グラデーションの開始・終了点を移動できます。

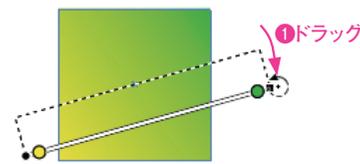


ドラッグで角度を設定

- 選択ツール でオブジェクト を選択し①、グラデーションツール でボックスの外から右上に向かってドラッグします② (はじめに表示されているバーは無視してかまいません)。ドラッグした方向と長さのグラデーションがかかります。

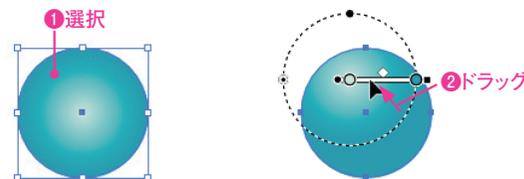


- カーソルをバーの終了点に近付けて、カーソルが になったところでドラッグして回転させます①。回転できるのは、■が表示される終了点側です。

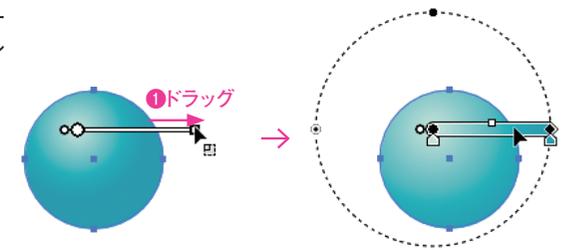


円形グラデーションの移動

- 選択ツール でオブジェクト を選択します①。グラデーションツール を選択し、グラデーションバーをドラッグして移動させます②。円形グラデーションの中心が移動します。

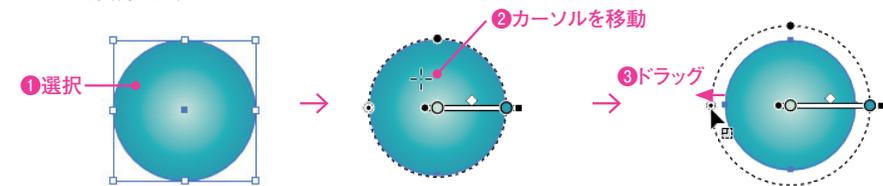


- 続いて、終了点をドラッグして移動させます①。カーソルをバーの上に移動すると、現在のグラデーションがどのようにかかっているかを確認できます。

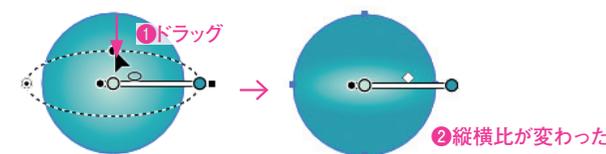


円形グラデーションの楕円の設定

- 選択ツール でオブジェクト を選択します①。グラデーションツール を選択し、カーソルをオブジェクトの内部に移動すると②、周囲にグラデーションの形状を表す点線が表示されます。左側に表示された◎をドラッグし③、グラデーションのサイズを調節します。



- 続けて、点線上の●をドラッグします①。グラデーションの楕円の縦横比が変わります②。

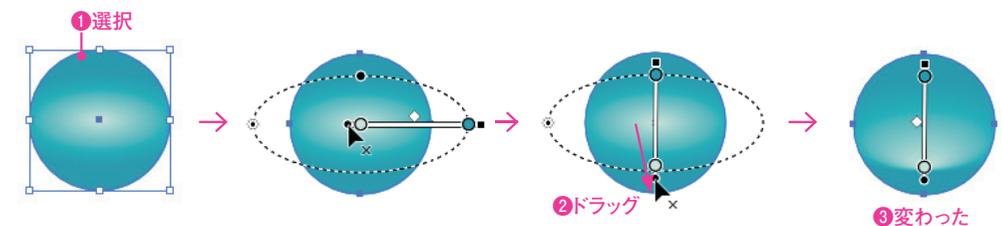


CHECK! 角度とサイズを同時に調節

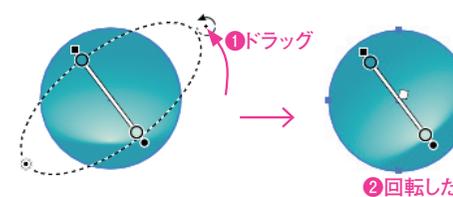
終了点の■を **[Alt]** キーを押しながらドラッグすると、角度とサイズを同時に調節できます。

円形グラデーションの中心をずらす

- 選択ツール でオブジェクト を選択します①。グラデーションツール を選択し、グラデーションツールで開始点の左に表示されている小さな●を下にドラッグします②。点線で表示されるグラデーションの形状は維持されたままですが、開始点と終了点の位置が変わるため、グラデーションのかかり方も変わります③。

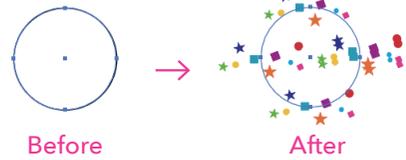


- 続けて、グラデーションの形状を表示する点線をドラッグして①グラデーションを回転させます。円形グラデーションでは、点線をドラッグして回転させられます②。



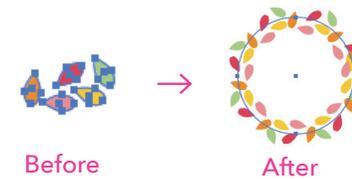
CHECK! 円形グラデーションを元に戻す

グラデーションツール で変形した円形グラデーションは、グラデーションパネルの [種類] で [線形グラデーション] にしてから [円形グラデーション] にすると、角度「0°」縦横比「100%」の状態に戻せます。

STEP 01
ブラシの適用と設定

細かいオブジェクトをパスに沿って配置したいときに便利なのが散布ブラシです。ライブラリに入っているブラシを上手に利用しましょう。

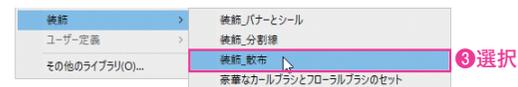
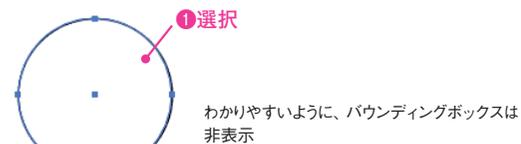
Lesson09 ▶ L9-3S01.ai

STEP 02
ブラシを登録する

オリジナルのブラシを作成して登録することもできます。ここでは、散布ブラシを例に登録してみましょう。

Lesson09 ▶ L9-3S02.ai

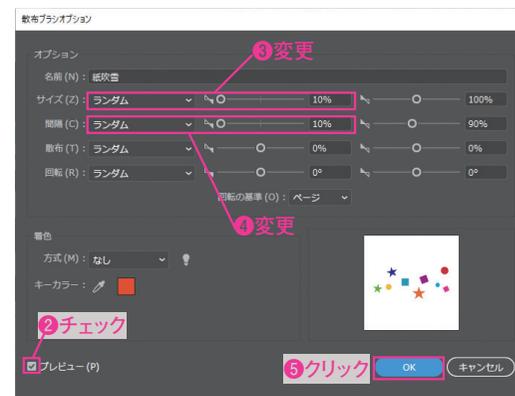
- 1 レッスンファイルを開きます。選択ツール でオブジェクトを選択します①。ブラシパネルの [ブラシライブラリメニュー] をクリックし②、表示されたメニューから [装飾] → [装飾_散布] を選択します③。



- 2 装飾_散布パネルが表示されるので [紙吹雪] をクリックします①。オブジェクトにブラシが適用されました②。使ったブラシは、ブラシパネルに追加されます。

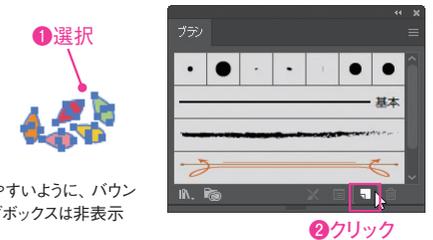


- 3 ブラシパネルに表示された [紙吹雪] をダブルクリックすると①、[散布ブラシオプション] ダイアログボックスが表示されます。[プレビュー] をチェックし②、プレビューを見ながら数値や設定を変更してみましょう。ここでは、[サイズ] を [ランダム]、最小値を [10%] に③、[間隔] を [ランダム]、最小値を [10%] に変更します④。変更後 [OK] をクリックします⑤。適用を選択するダイアログボックスが表示されるので [適用] をクリックします⑥。変更したブラシが、オブジェクトに反映されました⑦。

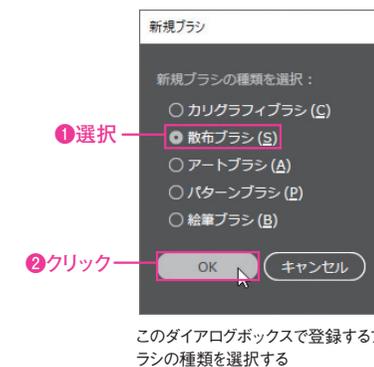


- 1 レッスンファイルを開きます。グループオブジェクト A を選択ツール で選択します①。このオブジェクトを散布ブラシに登録します。ブラシパネルの [新規ブラシ] をクリックします②。

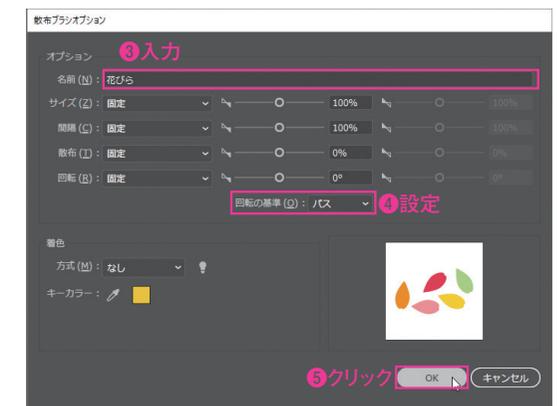
アートブラシ、パターンブラシも同様に登録できる。カリグラフィブラシ、絵筆ブラシを登録するときはオブジェクトを選択せずにブラシパネルの [新規ブラシ] をクリックする



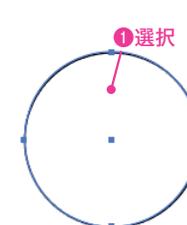
- 2 [新規ブラシ] ダイアログボックスが表示されるので [散布ブラシ] を選択し①、[OK] をクリックします②。[散布ブラシオプション] ダイアログボックスが表示されるので、オプションを設定します。設定内容については、P.170の「散布ブラシオプション」を参照ください。ここでは名前に「花びら」と入力し③、[回転の基準] を [パス] に設定し④、[OK] をクリックします⑤。



このダイアログボックスで登録するブラシの種類を選択する



- 3 ブラシパネルに新しいブラシが登録されるので、実際に使ってみましょう。選択ツール で、円のオブジェクト B を選択し①、ブラシパネルで登録されたブラシをクリックします②。ブラシが適用されました③。



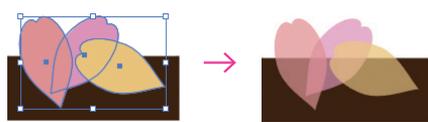
③ブラシが適用された

11-1

オブジェクトの不透明度

Illustratorでは、オブジェクトに不透明度を設定できます。不透明度は、透明パネルまたはコントロールパネルで設定します。アピアランスパネルを使うと、オブジェクトの[塗り]と[線]に対して個別に不透明度を設定できます。

STEP 01 透明パネルで不透明度を設定する



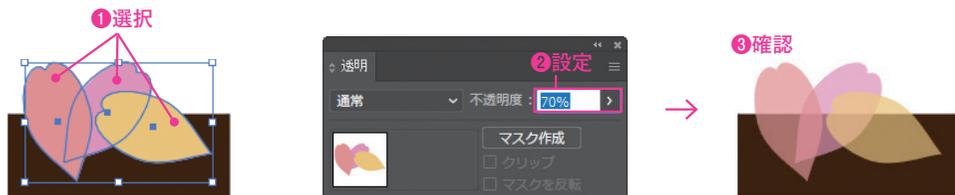
Before

After

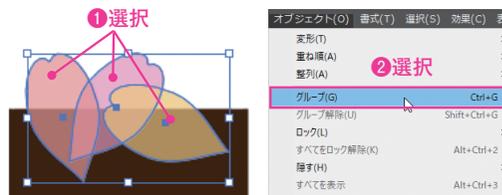
シンプルに不透明度を設定してみましょう。オブジェクトが透けて見えるだけで、アートワークの見栄えが変わります。

Lesson 11 ▶ L11-1S01.ai

- 1 レッスンファイルを開きます。選択ツール で花びら形のオブジェクト3つを選択します①。透明パネルの[不透明度]を「70%」に設定します②(コントロールパネルまたはプロパティパネルの[不透明度]でも設定できます)。選択を解除して、3つのオブジェクトが互いに透明になり、重なり合って表示されることを確認します③。



- 2 選択ツール で、不透明度を設定した花びら形のオブジェクト3つを選択します①。[オブジェクト]メニュー → [グループ] を選択してグループ化します②。



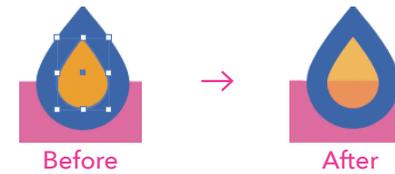
- 3 オブジェクトが選択された状態で、透明パネルの[グループの抜き]にチェックをつけます①。全体は透けていますが、オブジェクトが重なり合った部分は透けなくなります。再度選択し、[グループの抜き]のチェックをはずします②。重なり合った部分も透明になり合成されます。



わかりやすいように選択解除してある

グループ化してから不透明度を設定すると、[グループの抜き]は使えない

STEP 02 アピアランスパネルで不透明度を設定する



Before

After

アピアランスパネルでは、オブジェクト全体だけでなく、[塗り]、[線]のそれぞれに不透明度を設定できます。

Lesson 11 ▶ L11-1S02.ai

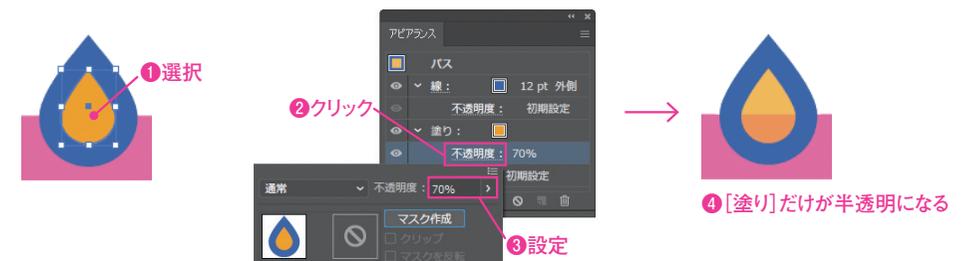
全体に不透明度を設定

- 1 レッスンファイルを開き、選択ツール でAの水滴型のオブジェクトを選択します([線]が[線を外側に揃える]になっています)①。アピアランスパネルで[線]と[塗り]の>をそれぞれクリックして[不透明度]を表示させます②。
- 2 アピアランスパネルの1番下の[不透明度]をクリックし①、表示された透明パネルで[不透明度]を「70%」に設定します②。オブジェクト全体に不透明度が適用されます。



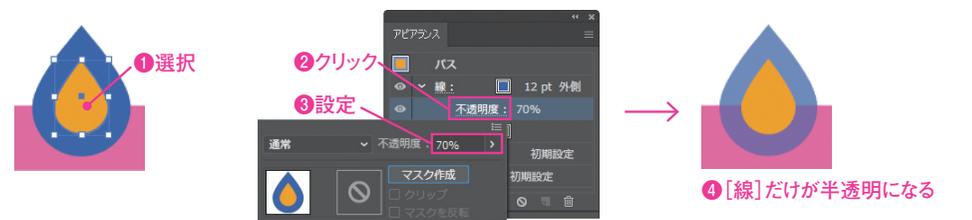
塗りに不透明度を設定

- Bの水滴型のオブジェクトを選択します①。アピアランスパネルで[塗り]の[不透明度]をクリックし②、表示された透明パネルで[不透明度]を「70%」に設定します③。[塗り]だけに不透明度が適用されたことを確認します④。

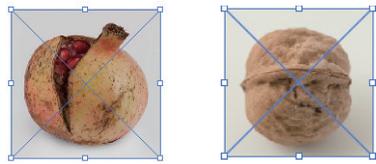


線に不透明度を設定

- Cの水滴型のオブジェクトを選択します①。アピアランスパネルで[線]の[不透明度]をクリックし②、表示された透明パネルで[不透明度]を「70%」に設定します③。[線]だけに不透明度が適用されたことを確認します④。



STEP 01 画像配置の基礎を覚える



After

トレース用などでは気にする必要はありませんが、印刷用の画像を配置するときは、解像度・カラーモード・埋め込みやリンク切れに注意が必要です。

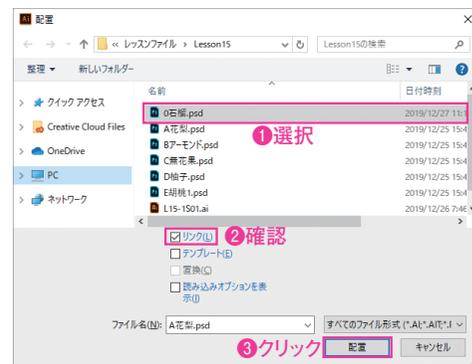
Lesson 15 ▶ L15-1S01.ai

■ 画像の配置と削除

1 レッスンファイルを開きます。警告ダイアログボックスが表示されるので、[無視] をクリックして開きます①。次に、[ファイル] メニュー → [配置] を選択します②。



2 表示された[配置] ダイアログボックスで「0石榴.psd」を選択します①。[リンク] にチェックがついていることを確認し②、[配置] をクリックします③。



3 マウスイカーソルと共に画像のサムネイルが表示されるので、アートボード上部の空いている場所をクリックして画像を配置します①。画像はクリックで配置したので、100%のサイズで配置されます②。リンクパネルに配置した画像が表示される③、コントロールパネルには配置した画像の名称、カラーモード、解像度が表示されていることを確認します④。



4 [Delete] キーを押して配置した画像を削除します①。画像が削除されると、リンクパネルからも画像名が削除されます②。

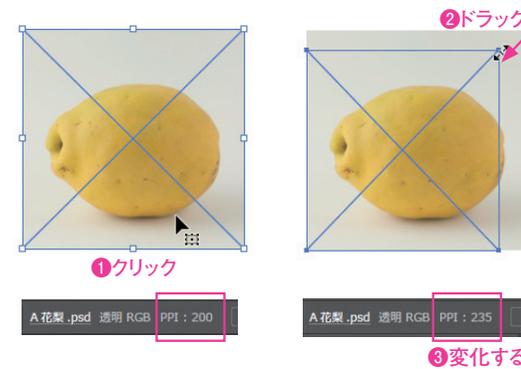
① [Delete] で画像を削除



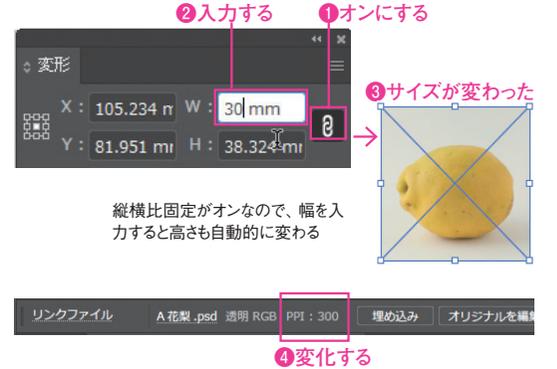
埋め込み画像も削除できる

■ 配置画像のサイズを変更する

1 選択ツールで画像Aをクリックして選択します①。[Shift] キーを押しながら、バウンディングボックスの角のポイントをドラッグして縮小します②。コントロールパネルで解像度が変化したことを確認します③。



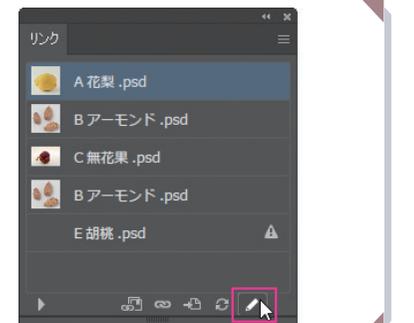
2 数値でサイズを指定してみましょう。画像を選択したまま、変形パネルで[縦横比を固定]をオンにしてから①、幅に「30mm」と入力します②。画像サイズが変わりました③。解像度が変化したことを確認します④。



COLUMN

ほかのアプリで画像を編集する場合

配置した画像の元画像の解像度やカラーモードを変更する場合は、画像を選択してから、リンクパネルの[オリジナルを編集]をクリックします。自動的にPhotoshopなどの画像編集アプリが起動し、画像ファイルが開かれるので、そこでファイルを修正し保存しよう。アプリを切り替えてIllustratorに戻り、リンクを更新すると、修正が反映されます。



■ 画像の埋め込み

選択ツールで画像Bをクリックして選択します①。コントロールパネルまたはプロパティパネルの[埋め込み]をクリックし②、画像を埋め込みます。[Photoshop読み込みオプション]ダイアログボックスが表示されるので、そのまま[OK]をクリックします③。リンクパネルのファイル名に埋め込みアイコンが表示されます④。



埋め込みを解除

埋め込んだ画像は、選択してからコントロールパネルまたはプロパティパネルの[埋め込みを解除]をクリックすると、PhotoshopファイルまたはTIFFファイルで保存できます。